漢字の熟字の読方について

前田正民

寛永年間に刊行された安楽庵策伝の著である醒睡笑という落語集の巻之六「推はちがうた」の条に、

文の上書に平林とあり。通る出家に読ませたれば、平林（ひやうりん）か平林（へいりん）か、平林（たひらばやし）か平林（ひらりん）か、一八十の木々か、其にてなくば平林（ひやうばやし）かと、これほどこまかに読みてあれども、平林（ひらばやし）といふ名字はよみあたらず。とかく推にはなにもならぬものぢや。

という一文がある。一笑話に過ぎないが、漢字の熟語の読は実に煩わしい。漢字には字音に、漢音・呉音・唐音と呼ばれるものがあり、更に慣用音などということがある。そこへ色々の字訓が加わって、雑多な読方が出て来て煩雑を極める。

字音だけで言えば、漢音は漢音どうし、呉音は呉音どうしで読まれるはずのものが、今日実際には漢音呉音と入り交って居るものが多く、更に連濁とか慣用音とかが出て来る。

次に二三の例を挙げる。（漢は漢音、呉は呉音の略。）

万　漢バン呉マン　歳　漢セイ呉サイ

二字熟して、漢バンセイ、呉マンザイ。実際には連濁でバンゼイ・マンザイ。

言　漢ゲン呉ゴン　語　漢ギョ呉ゴ

二字熟して、漢ゲンギョ、呉ゴンゴ

大言海「げんご」の条には次のように記されて居る。

〔言（ゲン）ハ漢音、ごんハ、呉音、語（ギョ）ハ、漢音、ごハ、呉音、故ニ、げんぎョ、ごんごト熟語トナルヲ至当トス、今ハ、漢呉音ヲ混ジテ云フ、言語道断（ゴンゴダウダン）ノ語アリ〕げんぎョに同ジ。コトバ。

謡曲では「万歳」は必ずバンゼイ（高砂・弓八幡等）「万歳楽」はマンザイラク（高砂等）バンゼイラク（難波等）言語同断は謡曲には屢々出るが必ずゴンゴダウダン（発言はゴンゴドオダン）である。「花に清香」の清香の如きも漢音でセイキャウ（発音はセイキョオ）と謡う。（田村・西行桜等）

謡曲では漢音は漢音どうし、呉音は呉音どうしで読まれるのが原則的になって居る。

三十年ばかり前に毎日新聞で少年の国語に関する研究の座談会があり、その折漢字の読方について調査発表の中に屏風をヘイフだのヘイフウなど読んだものがあるということだったがヘイフという読方は謡曲の咸陽宮や紅葉狩にもあるので、勿論少年はそんなことを知っていて書いたわけではあるまいが、一笑に附すべきことではないと思ったのである。

漢音呉音の混交は変だと言っても、言葉はいつか変遷して、現在は現在の読方に従うべき場合も随分多い。万歳のバイザイ、言語のゲンゴ、清香のセイカウ（発音セイコー）の如き、皆然りである。情緒・端緒・緒言は私はジョーショ・タンショ・ショゲンと読んでいるが、ジョーチョ・タンチョ・チョゲンと読む人が多くなっている。洗滌（センデキ）口腔（コーコー）の如きも今日センジョー・コークウと読むのが一般のようである。

国語には音訓混交のものがあって、所謂重箱読（上音下訓）湯桶読（上訓下音）というのがある。湯桶（ユトウ）は食事の時など飲用する湯を入れる器で、現在は特別の席以外は殆んど用いられぬが、これを両字訓読にすれば、ユオケとなり、入浴に用いる桶になってしまう。トートーと音読したら何のことか分らなくなる。合羽・結納の如き周知のことであるが、何とも面倒な次第である。

日常最も困るのは人名・地名である。普通の字でも、熊谷はクマガイ・クマガエ・クマガヤの何れか、河野はカワノかコーノかの類いが非常に多い。

本年一月二十八日の朝日新聞に、「剣山呼称はつるぎさんに統一」として

〔徳島〕徳島県観光審議会は二十七日、四国の最高峰〃剣山〃の呼称を「つるぎさん」字画を「剣山」に統一することにし、県に答申することを決めた。県下で「つるぎさん」としているところは徳島大、NHK、県山岳連盟など十六、「けんざん」としているのは国鉄、四国放送など十となっている。「つるぎさん」に統一する理由として「灯下録」＝文化九年出版＝や「日本山嶽志」などにもあきらかにされており、歴史的にみて「つるぎさん」が正当であるとしている。

と出ていた。

石川県の「白山」は、今日ハクサンで通っているが、古くは専ら「シラヤマ」であった。「白馬」嶽もシロウマ・ハクバと呼ばれている。第一「日本」もニッポン・ニホンがいつも話題になる。日本は言霊の幸わう国ですませぬ次第だが、古典を読む場合、今日の読方で通らぬことも多い。

最後に、地名の読方に関して、大分古い辞書だが、大西林五郎著の実用帝国地名辞典と実用帝国大字辞典によって、一二の例を挙げておく。

神　戸

カミベ　神戸村　伊賀—名賀
カンド　神戸　遠江磐原—吉田
カンベ　神戸町　伊勢—河芸
コート　神戸　相模中—比々多　○上野群馬—久留馬
ゴート　神戸　美濃安八—神戸町
ゴード　神戸　駿河富士—今泉　○武蔵北足立—神根　○同比企—唐子　○同北埼玉—手子林　○信濃東筑摩—笹賀　○上野勢多—東
コーベ　神戸市
ジンゴ　神戸　美作苫田—院庄
カダ　神田　神田　三河北設楽—振草

カミタ　神田村　相模―中　○備後―世羅
カンタ　神田　羽後南秋田―外旭川
カンダ　神田　東京神田区　○下総香取―神代　○常陸久慈―東小沢（以下略す）
カンデン　神田　近江神崎―御園
コーダ　神田村　讃岐―三豊　○神田　摂津豊能―北豊島（以下略す）
ジンダ　神田　上野多野―美九里
ジンデ　神田　武蔵北足立―大久保

平素、コーベ・カンダで通しているが、いざとなるとかくの如き有様である。

「甲南国文」バックナンバーもくじ（その二）

第四号

能一篇……前田正民
平安朝の文学と唐王朝の服色……岬野忠次
女三の宮の読癖、追補……三沢淳治郎
方言語彙研究について……鎌田良二
〔講座〕
くせものがたり資注（1）……三沢淳治郎
卒業論文要旨

第五号（品切れ）

「白峰」解釈覚え書き……三沢淳治郎
―「関守にゆるされて」と「松山」と―
夕顔の巻の「結び」とその展開……岩瀬法雲
「陳述」をめぐって……鎌田良二
〔講座〕
くせものがたり資注（2）……三沢淳治郎

第六号

「天声人語」の文章表現と恩惟形式について……
塩路三盲子
萩原朔太郎研究……五十嵐茂子
―その生涯と作品を通して―
卒業論文要旨

（第七号以下24頁へ）